

# 安心・安全 info

発行：自然社

〒064-0914

札幌市中央区

南14条西8丁目1056番1

Tel.011-562-0606

Fax.011-562-0808

防犯対策に携わる人のためのミニ情報誌

<http://www.shizen-sha.co.jp>

2011.08

## 街に安心の灯をともしすチカラ

それは、「青色防犯灯」ではなく「住民の防犯意識」では…

以前本誌でも取り上げたことのある「青色防犯灯」。注目されたのは、英国北部の都市グラスゴーのとある通りで、オレンジ色の街灯を青色に換えたところ、通りの雰囲気が変わったことに加え、犯罪の発生件数が減少する効果があったとタイズ番組で紹介されたのがきっかけでした。その後、日本でも「青色防犯灯」を取り入れた地域で「犯罪がゼロになった」と報道され、全国で評判となったのは記憶に新しいところです。

ありました。しかし、その効果が科学的に実証されるまでには至っていないのが実情です。

### 大切なのは地域の絆と住民の防犯意識

(財)地方自治研究機構と鹿児島市が52の自治体に対して行ったアンケート調査(下記グラフ)によると、防犯効果があった自治体では、「青色防犯灯」の設置を機に地域との交流を緊密化し、警察や地域団体と連携したパトロール体制を強化するなどして、防犯活動の活性化や住民の防犯意識の高揚を図っています。逆に効果がなかったり、不明であった自治体では、防犯活動については消極的でした。

「青色」の照明には、心理的に気持ちを静める、視覚的に明るく遠くを見通せるといった効果があり、悪事を企てる者が街頭犯罪などを犯しにくくなるのではないかとこの期待から、「青色防犯灯」を取り入れる自治体も

都市防災研究所客員研究員の須谷修治さんは、全国読売防犯協力会のホームページ内の『防犯公論』で、現地訪問などを行ったスタッフの話を総括し、グラスゴーでの青色街灯の効果について「青色光により麻薬常習者が腕の静脈が見え難くなったことにより注射が打てなくなり、麻薬関連犯罪が約40%減ったという事実のみで、青色街灯により犯罪そのものが激減したということを現地当局は云っていない」と述べています。当地での青色街灯の効果は、日本国内で期待される、街頭犯罪等の減少効果とは異なるものだったようです。

しかし、わが国で「青色防犯灯」を導入した自治体の中には、防犯効果があったとする調査もあります。

### 独り歩きしてしまった青色防犯灯の効果

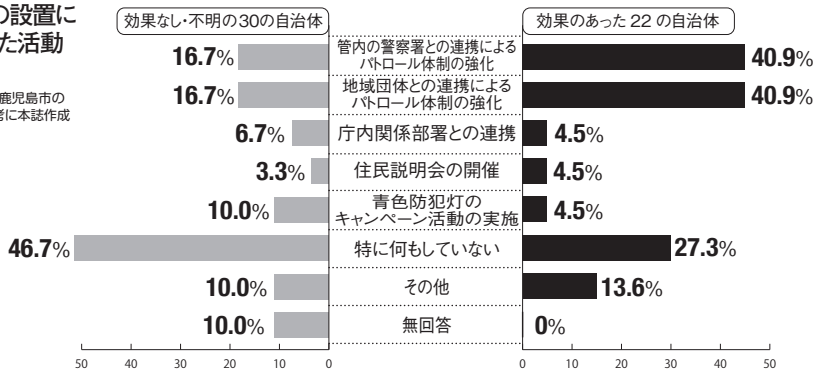
「青色」の照明には、心理的に気持ちを静める、視覚的に明るく遠くを見通せるといった効果があり、悪事を企てる者が街頭犯罪などを犯しにくくなるのではないかとこの期待から、「青色防犯灯」を取り入れる自治体も

鎮静作用や環境の変化をもたらす青色光の効果を期待して街灯の色を青色に換えるだけでは犯罪抑止効果は望めないのかもしれない。

青色の街灯はあくまで防犯対策の一つとして捉えたうえで、地域の交流を密にし、防犯パトロールなどさまざまな活動を展開し、住

### 「青色防犯灯」の設置にあわせて実施した活動(複数回答)

※財地方自治研究機構と鹿児島市の共同調査(2008)を参考に本誌作成



民の防犯意識を高めていくことが、街に安心の灯をともしすチカラとなるのではないのでしょうか。

6割が「夜の一人歩きは不安…」なのに

# 4人に1人が家では無施錠で就寝

9割が「危険だと感じている…」のに、

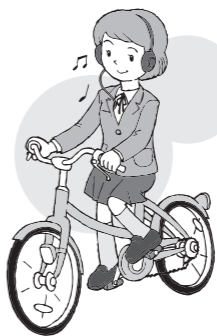
# 6割が移動中も携帯メールや音楽

矛盾だらけの女子学生 島根県警察本部による「女性の安全安心意識に関する調査報告書」から

島根県警によるアンケート調査で、アパートやマンションの玄関のカギをかけずに就寝することがある女子学生が25.3%もいることがわかりました。

（全体のおよそ35%）の回答を集計したもので、このような女子学生を対象にした防犯意識調査は全国初の試みとのことだ。

「いつもしている」「時々している」と回答しています。



**夜道は不安**  
でもブザーは持たん

女子学生の半数が犯罪被害にあう不安を感じることが「よくある」「たまにある」としており、特に「路上」や「繁華街」、「娯楽施設」など不特定多数の人が集う場所が高い数字となりました。

また、夜10時を過ぎてから住んでいる地域を一人で歩いているとき、「非常に不安を感じる」「ある程度不安に感じる」とした女子学生が6割にのぼり、さらに夜、街灯が少なく暗いと「とても思う」「ややそう思う」との回答は合わせて8割を越えました。

女子学生のおよそ6割が、自分の住む街は安全で安心して住みやすい地域であるとしており無施錠で就寝する人の意外な多さもうなずけますが、他の調査項目の結果では、女子学生の意識と行動に多くの矛盾や危うさが見え隠れしています。

**わかつちやいるけど やめられないっ！**  
歩みながら乗りながら 携帯メール・音楽

この調査は同県警が今年1～2月にかけて、県内の大学、短大、各種学校、専門学校に通う女子学生3081人を対象に行い、回収できた1082人

移動中に携帯でメールをするこ

音楽を「いつも聴いている」「時々聴いている」と回答しました。これらのことから、女子学生の認識と行動にズレがある実態が明らかとなつています。

移動中の携帯電話等の使用状況

使用状況	いつもしている3.1%	時々している33.5%	ほとんどしないなど
携帯での通話	8.5%	50.7%	28.2%
携帯でメール	7.7%	34.8%	25.8%

移動中に携帯電話等を使用する危険性の認知度

危険性の認知度	危険だと思う42.2%	危険と思うこともある43.6%	思わないなど
携帯での通話	51.8%	39.4%	
携帯でメール	53.1%	37.2%	
携帯でHPの検索	32.6%	45.5%	

※このグラフは島根県警本部の上記報告書に掲載されたグラフの一部を抜粋し、本誌でアレンジしたものです。

## 身近な犯罪

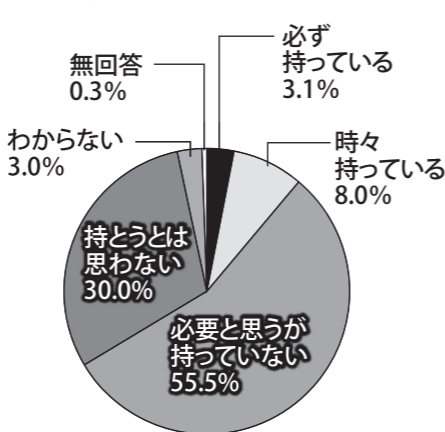
でも縁遠い防犯対策

女子学生自身や同居の家族が、過去に「自転車盗」「不審者」「痴漢」「無断侵入」などの犯罪被害にあったとすると回答が多く、彼女たちにとって犯罪は身近なものと思われ

る場合、タクシーを利用したり家族に迎えに来てもらう」などといった回答がみられる

にとどまりました。

防犯グッズの携帯状況



## 防犯活動には

賛同するけど 参加には消極的

女子学生の多くは犯罪を抑止するために「警察の防犯活動」や「個人の防犯対策」が「とても重要」と回答しています。そして、87.1%は地域住民が防犯パトロールなどの防犯活動をする事について「とても良いことだと思う」「良いと

思う」と答えています。

しかし、地域住民による防犯活動に「参加したい」「どちらかといえば参加したい」女子学生は合わせて約3割と消極的な数字がみられます。不参加の理由には「忙しいから」「危険な目にあいそうだから」という致し方ないものもありますが、「面倒だから」「特に理由がない」など無気力型の回答もみられました。

# NCN HEAD LINE

## 震災便乗詐欺、3,400万円に上る被害（警察庁）

東日本大震災に便乗した詐欺被害が7月末までに22都道府県で65件発生し、被害総額は約3,400万円に上っていることがわかりました。警察庁では、被災者支援を装った「義援金詐欺」や被災者を装って借金を申し込む「寸借詐欺」など、目立つ手口への警戒を強めており、「太陽光発電」や「放射性物質の除去」などを誘い文句にした詐欺事件等も起きていることから、契約前に取引内容をよく確認するよう注意を喚起しています。

## 「自動車盗」が増加！上半期の犯罪状況（警察庁）

平成23年上半年（1～6月）の「刑法犯の認知・検挙状況（暫定値）」が警察庁から発表されました。認知件数は71万1,837件（前年同期比7.1%減）と減少傾向にあります。検挙件数は22万3,662件（同7.2%減）、検挙率は31.4%（前年同率）でした。罪種別の認知件数では、ひったくりは神奈川が923件（同10.1%増）で最多となり、昨年35年振りにワーストを返上した大阪は2位でした。自動車盗は1万2,532件（同3.8%増）で、中でも愛知が2,437件（同43.8%増）と突出しています。

## サイバー刑法成立でネット犯罪対策を強化

「コンピュータウイルス作成罪」などの新設を盛り込んだ改正刑法が6月17日の国会で成立しました。サイバー犯罪の増加や、国境のない犯罪であるための国際協調の必要性などを視野に入れた改正とみられています。改正法では、正当な理由なくウイルスを作成・提供・供用した場合3年以下の懲役か50万円以下の罰金、取得・保管すると2年以下の懲役か30万円以下の罰金が科されます。

## 「隠語」を使ってなお増える児童の犯罪被害

警察庁は、昨年下半期にSNSなどの交流サイトやゲームサイト（いわゆる「非出会い系サイト」）を利用して児童が犯罪被害にあった事件（811件）を分析。被害者の6割が「ミニメール」で児童と連絡先を交換し、その際24.8%が「隠語」を使用したことがわかりました。サイト運営会社はミニメールでの連絡先交換を禁止しているため、「090」を「わらわ」とひらがなに置き換えるなどして、サイトの厳しい監視をくぐりぬける手段として使われるものです。

新聞各紙や関係機関・団体などのHPを参考にしております。

### ご注意下さい。

当社の防犯啓発商品に掲載した文章・イラスト・写真等を許可無く転載し、製作・販売している業者にご注意下さい。また、お客様のご発注により他の企業で作成された製品の中に、その企業が当社製品を許可無く転載、使用するケースも見受けられますので併せてご注意下さい。

## 声かけ1番！ 万引きとどめる「みんなには」

愛知県警は、昨年6～12月にかけ、万引きで検挙した10000人に対してアンケート調査を実施しました。検挙者が万引きを断念したことがある理由は、「店員から声を掛けられたため」が約7割で、「警備員の巡回（19.9%）」や「防犯カメラ（1.8%）」を大きく上回りました。

「みんなには」「何かお探してしょうか」など、店員であればごく自然な声かけが、万引き抑止に大いに貢献することが伺えます。



## 増える高齢者の万引き 孤独は大敵

和歌山県警は昨年9～11月、万引きの疑いで検挙された高齢者で協力が得られた35人に対して実態調査を行いました。その結果、犯行時に現金を持っていたのは8割、生活水準は「普通」という回答が54.3%だったことなどから、多くの犯行は「やむにやまらず」というより先々の経済的不安からの「節約目的」とみえています。

同県警の今年上半期のまとめによると、万引きの疑いで検挙された505人中46.5%が60歳以上の高齢者でした。高齢者の検挙件数は2005年を境に少年を上回り（09年を除く）、今では少年の倍近くになっています。

また、51.4%が配偶者がなく、42.9%は独居、交友関係が「少ない（51.4%）」「ほとんどいない（34.3%）」人も多く、同県警は「社会とのつながりが希薄で規範



## 「知っている」ことがアダとなり…

### 振り込め詐欺被害

長野県警が振り込め詐欺の被害者47人を対象に実施したアンケート調査で、回答した39人全員が「被害に遭わない自信があった」ことがわかりました。回答者のほぼ全員が新聞やテレビなどで「振り込め詐欺を知っていた」にもかかわらず、被害者の約4割が金融機関の窓口で現金を振り込んでおり、さらに約3割は不審に思った金融機関職員から声をかけられながらも振り込みをやめなかったといま

す。長野県警が振り込め詐欺の被害者47人を対象に実施したアンケート調査で、回答した39人全員が「被害に遭わない自信があった」ことがわかりました。回答者のほぼ全員が新聞やテレビなどで「振り込め詐欺を知っていた」にもかかわらず、被害者の約4割が金融機関の窓口で現金を振り込んでおり、さらに約3割は不審に思った金融機関職員から声をかけられながらも振り込みをやめなかったといま



TOPICSは、新聞各紙や関係機関・団体などのHPを参考にしてまとめたものです。

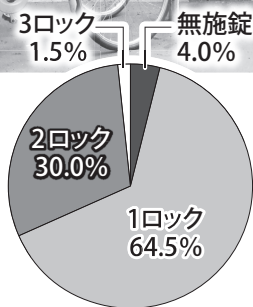
## 川柳後記

編集後記に代え、防犯をテーマにした川柳はいかがでしょう。

- おじいちゃん セールス来ると
- 遠い耳（撃退！悪質商法）
- 「振り込め」と言われて返す
- 「私にも」（してやったり）
- 声だけで 分かっで欲しい
- 家族だと（親不孝息子）
- 挨拶が 万引きとどめ
- 客にする（声かけ費用は0円よ）
- 未公開株 手に入れて
- ああ後悔（ままならない金もうけ）

## どろ読む？ 30%

～駐輪場の2ロック自転車の割合～



8月某日、札幌市内の地下鉄駅前に駐輪している自転車200台を対象に「カギかけ状況」の調査を行いました。そのうち、無施錠のものが4%、近年推奨されている「2ロック」を励行している自転車は全体の3割ほどでした。

実施日：8月10日（水）  
場 所：札幌市内地下鉄駅前駐輪場  
調査台数：200台